

2011年12月12日

博士学位論文審査報告書

大学名 早稲田大学
研究科名 人間科学研究科
申請者氏名 冨永 敦子
学位の種類 博士（人間科学）
論文題目 eラーニングとピア・レスポンスを組み合わせた
ブレンド型授業の文章作成力に及ぼす効果
The Effect of Writing Class Using Blended e-Learning and Peer
Response on Writing Performance

論文審査員 主査 早稲田大学准教授 向後 千春 博士（教育学）（東京学芸大学）
副査 早稲田大学教授 永岡 慶三 工学博士（慶應義塾大学）
副査 早稲田大学准教授 森田 裕介 博士（学術）（東京工業大学）
副査 東京学芸大学教授 岸 学 博士（心理学）（筑波大学）

本論文は、大学における文章作成授業の新しい授業形態として「eラーニングとピア・レスポンスを組み合わせたブレンド型授業」を設計・実践し、その学習効果について明らかにすることを目的とした。その概要は以下の通りである。

本論文は、以下の三つから構成される。一つ目はブレンド型授業設計のための予備研究、二つ目はeラーニングとピア・レスポンスを組み合わせたブレンド型授業の設計、三つ目は設計したブレンド型授業の実践とその学習効果の検討である。

予備研究では、ブレンド型授業（eラーニング+教室でのグループワーク）を設計する際の留意点を探った。まず、実験環境において3種類の授業形態による授業を行い、学習効果について比較した。次に、実際の授業において、eラーニングとグループワークによるブレンド型授業を行い、授業形態に対する好みと学習効果との関係を検討した。続いて、ブレンド型授業に対する指向性およびeラーニングに対する指向性を測定するための質問紙を作成・実施した。以上の研究の結果は、テスト結果に有意な差はなく、どの授業形態も理解度は同程度であった。また、eラーニングとグループワークをブレンドさせることにより、eラーニングの短所が軽減されるとともに、ブレンド型授業に対する評価が高まることが明らかに

なった。このことから、学習者の多くはブレンド型授業に適應できることが示唆されたが、一方でeラーニングに適應しにくい学習者がいることも示唆された。したがって、ブレンド型授業を設計する際は、学習者がeラーニングのオンデマンド講義をまじめに視聴できるような配慮が必要なことが示唆された。

次に、以上の研究で明らかになったブレンド型授業の留意点に配慮しながら、eラーニングとピア・レスポンスを組み合わせたブレンド型授業を設計した。設計にあたっては、Gagné, R. M. (1985) の9教授事象を取り入れた。この授業では、まずeラーニングで文章に関する知識や技能、すなわち宣言的知識を学ばせ、練習問題を書くことにより文章をどのように書くのかという手続き的知識を学ばせた。次に、ピア・レスポンスでフィードバックを受けることにより、宣言的知識を再学習させ、理解を深められるようにした。フィードバックをもとに、練習問題を修正させることにより、手続き的知識を再学習させた。最後に、教師フィードバックにより、ピア・レスポンスでは解決できなかった点を指摘できるように設計した。

この設計にしたがって、私立X大学の初年次生を対象にeラーニングとピア・レスポンスを組み合わせたブレンド型授業を実践した。その結果、文章作成技能のうち、「文章の型」「必要な内容」「わかりやすい順番」については向上したが、eラーニングでは扱っていなかった「正しい文法・表現」は向上しなかった。また、学習者はピア・レスポンスで毎回初対面の人と話すことに苦痛や困難を覚えることが明らかになった。

そこで、次の研究で、これらの問題点を改善し、その効果を検証した。まず、ピア・レスポンスのメンバーを対人関係能力によって固定化し、またアイスブレイクを行い、メンバー同士が親しくなれる機会を設けた。その結果、学習者はすべてのピア・レスポンスに対して高い満足度を示した。次に、「正しい文法・表現」に関するeラーニング教材を用意した。その結果、「正しい文法・表現」も向上した。授業前後に、eラーニング指向性、ピア・レスポンス指向性、ブレンド型指向性を測定したところ、授業後、指向性は良い方向へ変化した。また、各指向性が高くて低くても、学習者の文章作成力は向上することが示唆された。

以上の研究成果より、「eラーニングとピア・レスポンスを組み合わせたブレンド型授業」は、学習者の文章作成力の向上に効果があることが示唆された。

本論文で提示された一連の研究は、文章作成教育というニーズの高い教育領域での先端的な実践をeラーニングとピア・レスポンスを組み合わせたブレンド型授業によって実現し、同時に、その有効性をデータで実証したという点で、価値が高いものである。同時に教育実践に寄与するという点でもまたその貢献が期待される。

なお、本論文（一部を含む）が掲載された主な学術論文は以下のとおりである。

- [1] 富永敦子, 向後千春, 岡田安人 (2011) e ラーニング・対面講義・グループワークに対する学習者の認知と成績との関連性. 教育システム情報学会誌, 28 (3) , 247-252
- [2] 富永敦子, 向後千春 (2011) ブレンド型大学授業における授業形態の好みと成績との関連. 日本教育工学会論文誌, 34 (Suppl.) , 37-40
- [3] 富永敦子 (2011) ピア・レスポンスに対する満足度および理由に関する調査. 大学教育学会誌, 33 (1) , 122-129

以上、提出された博士学位論文を主査、副査含め4人が十分に吟味した結果、実践的研究および実証的研究によるエビデンスを提出することで、文章作成教育における先端的な知見をもたらし、実践に寄与する研究であると評価することができた。これにより、本論文をもって、富永敦子氏に対して、博士（人間科学）の学位を授与するに十分値するものと認める。

以 上